

令和8年（2026年）度事業評価シート

令和 8 年 6 月 30 日

評価対象事業	学び - 23	調査研究研修事業	☐ 法定受託事務
所管課	学びみらい部 教育センター		評価者 教育センター所長 仲井間 善之
一般	会計	款 55	項 5
目 20			
総合計画上の位置付け	分野名	学校教育	施策の方針名 教育内容・教育環境の充実

1 事業の目的

対象	市立小・中学校の教職員	意図	教育の今日的課題の解決に向けての研究・研修を進め、教育活動の支援を行うため。
効果	教職員の資質の向上を図り、今日的課題の解決能力を高める。		

2 事業工程と運営資源配分

☐ 単年度事業 ☐ 終期のある事業 （事業終了予定年度： 年度） ☒ 単年度繰返

	令和7年度	令和8年度	令和9年度（未定）
事業工程	幼小保教職員の研究会設置、研究・研修の実施、校内研修への講師派遣、教育指導員の派遣、各校の課題解決支援	幼小保教職員の研究会設置、研究・研修の実施、校内研修への講師派遣、教育指導員の派遣、各校の課題解決支援	幼小保教職員の研究会設置、研究・研修の実施、校内研修への講師派遣、教育指導員の派遣、各校の課題解決支援
予算額（千円）	2,203	13,813	
国県支出金	56	20	
地方債			
その他		1,504	
一般財源	2,147	12,289	0
当初人員配置数	4.9	4.9	0.0
人件費（千円）	24,657	25,631	0
事業実績	幼小保教職員の研究会設置、研究・研修の実施、校内研修への講師派遣、教育指導員の派遣、各校の課題解決支援		
決算額（千円）	1,884		
国県支出金			
地方債			
その他			
一般財源	1,884	0	0
人員配置実績数	4.9	0.0	0.0
人件費（千円）	24,022	0	0

3 活動結果（アウトプット）指標

No	活動結果（アウトプット）指標		単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9
						（上段実績、下段経費（千円））		
活1	指標名	学校支援研修会の実施数	回	26	⇒	25		
	実績につながる活動	喫緊の教育課題および学校のニーズに応じた研修等を実施した				700		
活2	指標名	市教育センター企画研修会の実施数	回	22	⇒	23		
	実績につながる活動	今日的教育課題の解決に向けて、講師を招き、研修等を実施した。				450		
活3	指標名	教育研究支援事業（小学校1校、中学校1校）	回	4	⇒	4		
	実績につながる活動	各校で取り組んでいる学校教育課題に対して、講師を派遣し指導助言を行うとともに、その成果を普及啓発した。				80		
活4	指標名	研究会の立ち上げ・研究の実施	%	100	⇒	100		
	実績につながる活動	教育課題・教育課程・幼児教育に関する研究会を立ち上げ、研究員を招聘し今日の課題を解消するにはどうすればいいか研究をした。				120		

活動結果指標の実績に影響を与えた外部要因	・活動結果指標（アウトプット）の実績に影響する外部要因はなかった。
本事業実施に伴う活動結果指標の達成状況に対する評価	・アウトプット指標にあげているものは、すべて回数が決まっているものであり、外部要因によって数変動するものではないために達成度は横ばいで100パーセントになる。 ・計画通り研修研修を実施できたことから、教職員の資質向上に必要な機会を継続的に提供できている。

4 成果（活動による直接アウトカム）指標

No	成果（アウトカム）指標の内容	単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9	関連する活動結果指標No （最大3つ）
成1	研究・研修に参加した者の満足度	%	100	⇒	90			1

成果指標の実績に影響を与えた外部要因	・成果指標（アウトカム）の実績に影響する外部要因はなかった。
本事業実施に伴う成果指標の達成状況に対する評価	・外部要因は特になく、教職員が自ら参加し学びを深めていること、振り返りのアンケートからも教職員が満足して研修を受けていることがわかる。
活動結果指標と成果指標結果の比較分析（寄与度）	研修の回数は特に減ることなく開催することができたため、より多くの教職員の満足度が上がっていったのではないと思う。回数が減ってしまうと、研修を受ける機会が減るために満足度は下がると思われる。

5 評価結果

評価	妥当性	事業に対するニーズ	☐ 増えている	☒ 変わらない	☐ 減少している
		事業実施の主体となるべき者	☒ 市	☐ 国・県	☐ 民間事業者 ☐ なし
	有効性	事業の成果	☐ 十分に出ている	☒ 概ね出ている	☐ 出ていない
	効率性	事業費削減余地	☐ ある	☒ なし	
	公平性	関連・類似事業との統合	☐ できる	☒ できない	
方向性		評価実施年度の方向性	⇒ 評価実施翌年度以降の方向性		
	事業内容の方向性	☒ 事業内容は現状通り ☐ 事業内容は見直し済 ☐ 事業を休止又は廃止済 ☐ 他事業と統合済	⇒	☒ ① 事業内容は現状通りとする ☐ ② 事業内容は見直す ☐ ③ 事業は休止又は廃止する ☐ ④ 他事業と統合し、本事業は廃止する	→ ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ その他 事業へ統合
	予算規模の方向性	☒ 予算規模は現状維持 ☐ 予算規模は拡大済 ☐ 予算規模を縮小済	⇒	☒ ⑤ 予算規模は現状維持とする ☐ ⑥ 予算規模は拡大する ☐ ⑦ 予算規模は縮小する	

今後の取組方針（見直し方針）	課題への対応		結果	具体的な内容	
	前年度の新たな課題への対応結果		前年度は新たな課題なし		
	活動結果指標や成果指標の達成状況に影響を与える新たな課題		新たに認識された課題はなかった		
	新たな課題に対応するための新規事業の必要性		新たに認識された課題はなかったため検討なし		
	総評	調査研究・研修事業に関しては毎年回数が決まっており、特に増減することはない。しかし、研修を開催し、受講者の満足度等を調べるとその時の講師の話に対する受講者の考えがわかるので、特に企画研修会は教育センター主催になるので、その受講者の満足度をよく吟味し次年度の研修の企画につなげていきたい。また、学校支援研修会に関しても、満足度を吟味し来年度の学校支援研修会の講師選定に生かしていきたいと思う。			
		上位施策への寄与度			
B					

○ 他市比較・ベンチマーク（県内外自治体や民間団体との比較値）

比較事項									
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績	1 回	1 回	1 回	1 回	1 回	1 回	1 時間	1 回	1 回
	28,000円	30,000円	30,000円	20,000円	30,000円	42,000円	12,000円	30,000円	30,000円

比較事項									
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績	1 回						1 時間		1 回
	20,000円						10,000円		30,000円

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方									
	鎌倉市は、近隣市町と比較すると講師謝礼(28,000)、指導助言謝礼(20,000)の金額が安く設定されている。講師依頼の際に金額面で断られたことはないが、交通費込みの値段なので遠方の講師は頼みづらい現状がある。次年度以降、近隣市と同等の金額にあるように予算編成を考慮していきたい。金額面の情報については、湘南三浦教育事務所より毎年近隣市がどんな講師を呼んでいるか、いくら支払っているか一覧が来るようになっている。								